

Y13a 「はやぶさ2」アウトリーチ支援構想

高橋典嗣<sup>1,2</sup>, 吉川真<sup>1,3</sup>, 西山広太<sup>1</sup>, 岸 茜<sup>1,4</sup>, 山田遥子<sup>1,2</sup> ( <sup>1</sup> 日本スペースガード協会スペースガード研究センター, <sup>2</sup> 明星大学, <sup>3</sup> JAXA, <sup>4</sup> 川口市立科学館 )

日本の小惑星探査機「はやぶさ」は、2003年5月9日に内之浦から打ち上げられ、2005年9月12日に小惑星イトカワに到着、約3ヶ月の探査を終え、2010年6月13日に採集したサンプルを地球に持って帰還した。この約7年間に及ぶ「はやぶさプロジェクトチーム」関係者の努力により、幾多の苦難を克服し、サンプルリターンの目的は達成された。この快挙は、日本人の心に深く刻まれ、最後まで諦めなかった研究者の努力が賞賛された。

日本スペースガード協会(JSGA)では「はやぶさ地球帰還1周年記念講演会」を2011年6月12日に都内で開催した。参加者の調査から、その人気の理由、どのような人々が「はやぶさ」人気を支えていたか、実態、要因、動向等についての知見を得た。「はやぶさ」の人気は、男女に関係なく、また幅広い年齢層に受容されている。参加者の特質としては、ネット情報を活用していること、学生時代に理科好きであったことが挙げられる。また、「はやぶさ」の人気の要因となる評価、意義、影響、期待の項目の相関及び基礎データとの比較から、女性層に関心が高いこと、理科嫌いにも受容されていたことがわかった。傾向として、理科苦手ほど社会に役立つと思っている。熱狂的ファンもはじめての参加者にも受容されている等の特質を明らかにした。

これらの結果から、今後の「はやぶさ2」プロジェクトの推進に伴い、さらに多くの人々に受容され、より社会に根付くための「はやぶさ2アウトリーチ」支援構想を提示する。